

<4時から夢塾> 特別支援教育

第8回「4時から夢塾」は、8月8日(水)に新潟大学教職大学院 古田島恵津子教授を講師に『特別支援教育』「的確な把握と効果的な指導②」の講義を開催しました。



1 前回の復習

- ・教師の経験値に頼った一方的な指導方法。一つの評価方法→分からない子どもの気持ちが分からない。→教室に漂う緊張感⇒子どもの反応を確認しながら、授業を進行することが目標。
- ・学習スタイル(学習する際の優位感覚)⇒多様な子どもがいることを前提に準備をすること。

2 選べる学び方と共生社会

- 選べる学び方・考え方を実現する授業・・・①分からない時に「分からない」と言える教室環境 ②学ぶ意欲を引き出す課題 ③学びに適した教材教具の準備(cf. 書くのが苦手→iPad) ④ICTの活用 ⑤目標, 目的, スケジュールの提示 ⑥選択できる表現方法(話す, 書く, PC 端末, ホワイトボード等) ⑦選べる学び方(一人で考える, ペアで考える, 先生に聞くなど)
- 選べる学び方の効果・・・全員がそれぞれのやり方とペースで学習に取り組む, 互いの取り組み方を尊重し, 理解し合い, 協力して課題をやり遂げる効果が期待できる。⇒ **共生社会の実現へ**

3 CASTのUDLガイドライン

*アメリカの CAST(Center for Applied Special Technology)

- ・うまく学べないことを子どもの資質や能力に求めない。→教え方を工夫したらどうなの?
- ・学習上の障壁を乗り越える努力は, 学習者ではなく, 学習内容や方法が追うべき!
- 演習を行う**・・・「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級・授業づくり自己評価カード」で, 受講者が普段の自分の授業を振り返ってみる。(振り返り後に, 隣同士で情報交換する)
- ・UDLの要素がたくさんある授業はよい授業?
- 一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに, あらゆる他者を価値のある存在として尊重し, 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え, 豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となるようにすることが求められている。(新COS 総則前文より)

4 UDLの考え方を取り入れた授業実践の例

- ・学習課題の工夫・・・実物や作品の例の提示等, 子どもがおもしろい!と感じる魅力的な課題
- ・分からなさ寄り添う・分からなさを取り上げる等, 解決策・思考を促す教師の支援的発話へ
- ・分からなさを学習課題として, 全員で解決する経験を積み重ねさせる。→役立つことを実感
- ・分からなさを主役にした授業展開・・・モヤモヤしている○子さんが, スッキリできる説明をしよう。
- ◎教育方法(目標・方法・教材・指導方法)を改善することによって, 子どもの学びを保証する。



<参加者の声>

- UD化を意識して取り組んでいるが, 多く取り入れれば良い授業になるわけではないことに驚いた。目の前の子どもの反応を見ながら, その子に合う指導の大切さに改めて気付いた。
- 選べる学び方という発想がなかったので, 今後の授業を考えるヒントとなった。
- 子どもたちは, 多様な学び方で学習していくことで, 分かるようになる方法や自分に合った学び方に気づき, 安心して学びに向かうことができることがよく分かった。
- 上手く学べないことを子どもに原因を求めず, 教師サイドの改善が大切ということを学んだ。